

WRANGLER

2025 オーナーハンドブック



Jeep

車両の画像は一例です。実際に販売される製品は異なる場合があります。

WRANGLER

1

はじめに
ページ 3



2

インテリア
ページ 5



3

エクステリア
ページ 23



4

緊急
ページ 27



5

仕様
ページ 37



6

さく引
ページ 42

はじめに

オーナーハンドブック、はじめに	3
記号説明	3
アシスタンスが必要な場合	4

インテリア

インテリアの概要	5
始動と運転	6
Keyless Enter n' Go™ - パッシブ・エントリ	6
START&STOP システム	6
マルチメディア & 電話接続	7
Uconnect システム	7
Uconnect の設定	7
デバイスのペアリング／削除	8
Apple CarPlay®	8
Android Auto™	8
Uconnect 音声認識 - タイプ別装備	8
オフ・ロード・ページ	9
充電およびコンセント	9
電源コンセント	9
パワー・インバーター - タイプ別装備	10
USB	10
インストールメント・パネル	11
インストールメント・パネルについて	11
インストールメント・パネル・ディスプレイの位置とスイッチ	12
警告灯およびメッセージ	12
室内のコンフォート設定	12
ヒーター/エアコン	12

自動ヒーター/エアコンの説明および機能	13
自動温度コントロール(ATC)	14
エアコン音声認識	14
フロント・シート・ヒーター - タイプ別装備	14
パワー・フロント・シート調整	14
ヘッド・レスト	15
照明の操作	16
ヘッドライト・スイッチ	16
オートマチック・ハイ・ビーム	16
オート・ヘッドライト	16
フロントガラス・ワイパ／ウォッシュャ	16
フロントガラス・ワイパの作動	16
クルーズ・コントロール・システム	17
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)	17
パーキング・アシスト	19
ParkSense リヤ・パーキング・アシスト・システム	19
オフ・ロード機能	20
アクスル・ロック(Axle Lock) (Tru-Lok)、フロントおよびリヤ - タイプ別装備	20
アクスル・ロック(Axle Lock) (Tru-Lok)、リヤのみ - タイプ別装備	20
電子制御式スウェイ・バー切り離し機能 - タイプ別装備	21
Off Road+ (オフ・ロード+) - タイプ別装備	21

エクステリア

エクステリアの概要	23
エクステリア・カメラの表示	24
後方カメラ	24
ボンネット	24

ボンネットを開けるには	24
ボンネットを閉じるには	25
車両への給油	25

緊急

SOS - 緊急通話 - タイプ別装備	27
ジャッキ・アップとタイヤ交換	29
ジャッキ作業の準備	29
ジャッキ・アップ位置	29
スペア・タイヤの取り外し	29
ジャッキ作業の手順	30
ジャンプ・スタート - ガソリン・モデル	32
ジャンプ・スタートの準備 - ガソリン・モデル	32
ジャンプ・スタート手順 - ガソリン・モデル	32
スタックからの脱出	33
走行不能車両のけん引	34
緊急時のけん引	34

仕様

エンジン・ルームの概要	37
2.0L エンジン	37
フルード容量	38
エンジン・フルードおよび潤滑剤	38
シャーシ・フルードおよび潤滑剤	39
整備およびお手入れ	41
定期整備	41
オイル交換のリセット	41
エンジンの慣らし運転について	41

オーナーハンドブック、はじめに

Jeep®をお選びいただきありがとうございます。このオーナーハンドブックは、お車の重要な機能をすぐにご理解いただけるように作成されています。このハンドブックには、緊急情報を含め、自動車の運転と維持に必要なほとんどのことが記載されています。

このハンドブックでは、お客様のお車に標準装備またはオプション装備されている特定の機能や装備の操作方法についても図解して説明しています。お客様のお車に装備されていない機能や装備の説明が含まれている場合もあります。FCA International Operations LLC (FCAIO) は、以前に生産された車について何ら義務を負うことなく、設計および仕様を変更し、製品への追加・改良を行う権利を有するものとします。

記号説明

警告!	この記載は、衝突事故やけが、死亡につながる恐れのある運転操作などに適用されません。
------------	-------------------------------------------

注意!	この記載は、車に損傷を与える恐れのある操作などに適用されます。
メモ:	取り付け、操作、信頼性を改善するための提案です。これに従わないと、損傷が発生することがあります。
ヒント:	製品や機能をより使いやすくなるための一般的なアイデア／解決策／提案です。
 ページ参照矢印	これを参照すると、特別な機能についての詳細な情報が得られます。
 脚注	その項目に付随する補足／該当情報です。

重要な情報を見逃すことのないよう、本書をよくお読みください。注意および警告には必ず従ってください。

アシスタンスが必要な場合

FCAIO のディーラーでは、製品およびサービスがお客様にご満足いただけるものであるよう常に心がけています。整備その他に関する問題がありましたら、次のようお願いいたします。

- 問題をジープ正規ディーラーの担当者または責任者にご相談ください。問題を早期に解決するためには、ジープ正規ディーラーの販売責任者が最もふさわしい立場にあると考えます。
- **日本**

それでも問題が解決しない場合は、FCAIO までご連絡ください。

Jeep®フリー・ダイヤル

地域の無料電話サービス番号

電話: 0120-712-812

販売店にご連絡の際は、下記の内容をお伝えください。

- お客様のお名前、ご住所、お電話番号
- 車両識別番号 (VIN) (この 17 桁の番号は、運転席側のインストルメント・パネルの上隅にある、フロント・ウィンドウ越しに見えるプレートに記載されています。また、この番号は車検証にも記載されています)
- 車両を購入し、整備を担当しているジープ正規ディーラー名
- 車両の納車日およびオドメータが示す現在の走行距離
- 車両の整備記録
- 発生した問題とその状況に関する詳しい説明

インテリアの概要



1 - Uconnect ラジオ画面表示 ⇨ ページ 7

2 - インstrument・パネル・ディスプレイ ⇨ ページ 12

3 - フロントガラス・ワイパおよびウォッシャー ⇨ ページ 16

4 - ヒーター/エアコン ⇨ ページ 12

5 - Instrument・パネルのスイッチ ⇨ ページ 12

6 - USB/AUX メディア・ハブ ⇨ ページ 10

7 - START&STOP システム「Off(オフ)」スイッチ ⇨ ページ 6

8 - キーレス・プッシュ・ボタン・イグニッション

9 - Uconnect のボイス・コマンド・ボタン ⇨ ページ 8

10 - クルーズ・コントロール・ボタン ⇨ ページ 17

11 - ヘッドライト・スイッチ ⇨ ページ 16

始動と運転

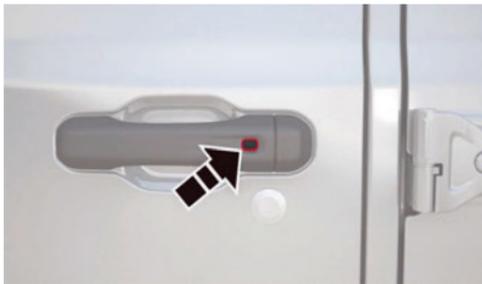
KEYLESS ENTER n' Go™ - パッシブ・エントリー

Keyless Enter n' Go™ - パッシブ・エントリーにより、キー・フォブのロックまたはロック解除ボタンを押さなくても、車両のドアとスイング・ゲートを施錠または解錠することができます。

車両のドアおよびスイング・ゲートを解錠／施錠するには

有効なパッシブ・エントリー・キー・フォブを身につけた状態でハンドルをつかむと、車両を解錠できます。運転席のハンドルは運転席ドアのみロックを解除し(Uconnect 設定で特にプログラムされていない場合)、助手席のハンドルはすべてのドアとスイング・ゲートのロックを解除します。

有効なパッシブ・エントリー・キー・フォブを身につけた状態で、ドア・ハンドルのパッシブ・エントリー・ロック・ボタンを押して車両とスイング・ゲートを施錠します。



ドア・ハンドル・ロック・ボタンを押しての施錠

メモ：

- ロック・ボタンを押しているときは、ドア・ハンドルをつかまないでください。これにより、ドアが解錠されることがあります。
- キー・フォブは必ず手元に置いてください。

START&STOP システム

停止／始動システムは、燃費向上とエミッション低減のために開発された機能です。必要条件が満たされると、停車中にシステムがエンジンを自動的に停止させます。ブレー

キ・ペダルを放すか、アクセル・ペダルを踏むか、クラッチ・ペダル(マニュアル・トランスミッションの場合)を放すと、エンジンは自動的に再始動します。

システムが「Stop/Start Ready (START&STOP システム準備 OK)」の状態であること。「インストルメント・パネルについて」のインストルメント・パネル・ディスプレイの「START&STOP」セクション内に、「Stop/Start Ready (停止／始動準備 OK)」のメッセージが表示されます。

START&STOP システムを手動で OFF にする方法

START&STOP システムを手動でオフにできることをご存じでしたか？

START&STOP システム「OFF (オフ)」スイッチを押すだけで、この機能がオフになります。スイッチのライトが点灯し、インストルメント・パネル・ディスプレイに「STOP/START OFF (START&STOP オフ)」のメッセージが表示されます。



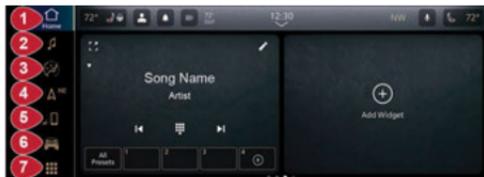
START&STOP システム「OFF(オフ)」スイッチ

メモ :

イグニッションを「Off(オフ)」にしてから「ON(オン)」に戻すたびに、「START&STOP(停止/始動)」システムは「ON(オン)」位置にリセットされます。

マルチメディア & 電話接続

Uconnect システム



Uconnect 5/5 NAV ディスプレイ

- 1 - 「Home(ホーム)」ボタン
- 2 - 「Radio/Media(ラジオ/メディア)」ボタン
- 3 - 「Comfort(コンフォート)」ボタン
- 4 - 「Navigation(ナビゲーション)」ボタン(タイプ別装備)
- 5 - 「Phone(電話)」ボタン
- 6 - 「Vehicle(車両)」ボタン
- 7 - 「Apps(アプリ)」ボタン

メモ :

Uconnect 画面の画像は、車両のソフトウェアを正確に反映していない場合があります。

Uconnect の設定



Uconnect 5/5 NAV (12.3 インチ・ディスプレイ装備車) の Uconnect の設定

- 1 - タッチスクリーンのボタン
- 2 - フェイスプレートのボタン

「Vehicle(車両)」ボタンを押してから、タッチスクリーンの上部にある「Settings(設定)」ボタンを押して、設定のカスタマイズを開始します。

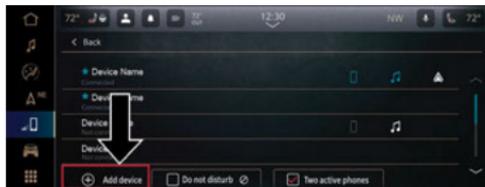
メモ :

車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

- **Display(ディスプレイ)** - ディスプレイの明るさなどの機能をカスタマイズしたり、インストルメント・パネル・ディスプレイに表示されるナビゲーションの指示を設定したりします。
- **Safety/Driving Assistance(セーフティ/ドライビング・アシスト)** - 警告信号やステアリング・ホイールの強さなどの設定をカスタマイズします。
- **Phone/Bluetooth®(電話/Bluetooth®)** - ペアリングされているデバイスに関する設定をカスタマイズします。
- **Camera(カメラ)** - 車両のカメラ設定をカスタマイズします。
- **Seats & Comfort(シートおよびコンフォート)** - シート・ヒータやステアリング・ホイール・ヒータで快適性をカスタマイズします。
- **Key Off Options(キー・オフ時のオプション)** - 車両をシャットダウンするときの動作をカスタマイズします。
- **Audio(オーディオ)** - オーディオ設定をカスタマイズします。

デバイスのペアリング／削除

1. 携帯電話の Bluetooth® が有効になっていることを確認してください。
2. 車両を「ACC」または「ON/RUN (オン／走行)」位置にした状態で、車両のタッチスクリーン・メニュー・バーの「Phone (電話)」ボタンを押します。
3. 「Device Manager (デバイス・マネージャ)」を押しします。
4. 「Add Device (デバイスの追加)」を選択します。
5. 携帯電話とタッチスクリーンの指示に従ってください。



Uconnect 5/5 NAV の電話のペアリング

以下の手順に従ってスマートフォンを削除します。

1. タッチスクリーンの「Device Manager (デバイス・マネージャ)」ボタンを押します。
2. 削除したい電話またはデバイスの横にある「Settings (設定)」の歯車アイコンを押します。
3. 「Delete Device (デバイスの削除)」を押します。これでデバイスは削除されます。

APPLE CARPLAY®

1. 初回接続時に iPhone® のロックが解除されていることを確認し、「Settings (設定)」で Siri が有効になっていることを確認します。
2. iPhone® を車内のメディア USB ポートに接続するか、iPhone® とシステムをペアリングします。システムとペアリングされていれば、デバイスを接続する必要はありません。
3. 機器が接続されて認識されると、メニュー・バーの「Phone (電話)」アイコンが Apple CarPlay® アイコンに変わります。

メモ：

Apple CarPlay® を使用するには、携帯電話のデータ通信が作動していて、携帯電話の通話圏内にいることを必ず確認してください。携帯電話の電波状況が Apple CarPlay® 内のタッチスクリーンの左側に表示されます。データ・プランの料金が適用されることがあります。

ANDROID AUTO™

1. Google Play ストアから Android Auto™ アプリをダウンロードします。
2. 携帯電話を車内のメディア USB ポートに接続するか、携帯電話とシステムをペアリングします。システムとペアリングされていれば、デバイスを接続する必要はありません。
3. 機器が接続されて認識されると、メニュー・バーの「Phone (電話)」アイコンが Android Auto™ アイコンに変わります。

メモ：

Android Auto™ を使用するには、携帯電話の通信圏内にいることを必ず確認してください。Android Auto™ は、携帯電話のデータを使用し、お使いの携帯電話の電波状況はタッチスクリーンの右上隅に表示されています。データ・プランの料金が適用されることがあります。

Uconnect 音声認識 - タイプ別装備

はじめに

Uconnect 音声認識を使用するには、以下の手順に従ってください。重要なボイス・コマンドと、お使いの車両の VR システムのコントロールのために知っておくべきヒントが記載されています。

基本的ボイス・コマンド

下記の基本的ボイス・コマンドは、Uconnect システムの使用中でも使用できます。

「VR (音声認識)」ボタン  を押すか、Uconnect 5/5 NAV の場合は車両を「起動させる」言葉、「Hey Uconnect、(ハイ、ユーコネクト)」と発話します。ビーブ音の後で、

- 「Cancel (キャンセル)」と発声すると、現在のボイス・セッションが中止されます。
- 「Help (ヘルプ)」と発声すると、推奨ボイス・コマンドのリストが聞こえます。
- 「Repeat (リピート)」と発声すると、システムの指示が再度聞こえます。

Uconnect システムで VR システムの状態を知らせる視覚的な合図に注目してください。

メモ：

音声認識機能が搭載されていない車両でも、音声認識ボタンがある場合があります。これらのボタンは、Siri または Google アシスタントの音声認識セッションを開始することで、Android Auto™および Apple CarPlay®と連動します。お使いのデバイスによっては、音声認識セッションを開始するために VR ボタンを 1 秒間長押しする必要があります。

オフ・ロード・ページ

オフ・ロード・ページは、オフロード走行中に車両のステータス情報を提供するアプリケーションです。このページには、駆動系の状態、トランスファケース、クーラント/オイル・ゲージ、車両ピッチ/ロール、トレイルカム・システムへのアクセスなどの情報が表示されます。



Uconnect 5/5 NAV のオフ・ロード・ページ

オフ・ロード・ページにアクセスするには

1. タッチスクリーンの「Vehicle(車両)」ボタンを押し、「Dashboard(ダッシュボード)」を選択します。

2. 「Off-Road Pages(オフ・ロード・ページ)」を押します。
3. タッチスクリーンで希望のボタンを押すと、オフ・ロード・ページ内の特定のオプションにアクセスできます。

充電およびコンセント

電源コンセント

この車両には、携帯電話、小型電子機器、およびその他の低消費電力のアクセサリ機器に電源を供給できる 12 ボルト(13A)の電源ソケットが装備されていることがあります。

この車両には、以下のいずれかの場所にコンセントがあります。

- インstrument・パネルのヒータ/エアコン・ボタンの下
- リヤ・カーゴ・エリアのトリム
- センタ・コンソールの裏側



Instrument・パネル電源コンセント

メモ：

鍵のマークが付いた電源コンセントは、イグニッションが「ON/RUN(オン/走行)」位置のときに電源が入ります。

警告!

重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- 12V ソケットには、このタイプのソケット専用の機器のみを挿入してください。
- 濡れた手で触らないでください。
- 走行しているとき、および使用していないときは、キャップを閉めてください。
- ソケットの扱いを誤ると、感電や心臓麻痺を起こす恐れがあります。

注意!

- 電源ソケットはアクセサリ・プラグ専用で設計されています。電源ソケットにはその他の物を挿入しないでください。ソケットを損傷し、ヒューズが飛ぶ場合があります。電源ソケットの使い方を誤ると新車保証の対象外の損傷を引き起こす恐れがあります。
- プラグ接続タイプのほとんどのアクセサリ部品（携帯電話など）は、使用中以外もバッテリー電源を消費します。長時間プラグを差し込んだままにしておくと、車のバッテリーが放電してバッテリーの寿命を縮めたり、エンジン始動に支障をきたすことがあります。
- 電力を大量消費するアクセサリ部品（クーラ、掃除機、ライトなど）は、バッテリーの放電をさらに速めます。このようなアクセサリ部品は、注意を払って断続的に使用してください。
- 電力を大量消費するアクセサリ部品を使用した後や、電源プラグを差し込んだまま長期間エンジンを開始しなかった場合は、車両を十分な時間走行させ、バッテリーを充電してください。

パワー・インバーター タイプ別装備

直流 (DC) 電流を交流 (AC) 電流に変換する、最大 230V (400W) のインバーターのコンセントがセンタ・コンソールの背面にあります。



パワー インバーター

メモ:

400W はインバーターの最大値であり、各コンセントの最大値ではありません。2 つのコンセントが使用されている場合、400W が接続されたデバイス間で共有されます。

警告!

重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- コンセントにいかなる異物も挿入しないでください。
- 濡れた手で触らないでください。
- 使用していないときは蓋を閉めてください。
- ソケットの扱いを誤ると、感電や心臓麻痺を起こす恐れがあります。

USB

この車には、2 つの USB ポートと 1 つの AUX ポートがインストルメント・パネルのヒータ/エアコンの下に装備されています。また、センタ・スタックの後ろ、パワー・インバータの上に USB ポートが装備されている場合もあります。



フロント USB/AUX ポート

- 1 - AUX ポート
- 2 - USB タイプ C
- 3 - USB タイプ A

Uconnect 画面の下にある USB ポートにモバイル機器を接続すると、Android Auto™または Apple CarPlay®機能が起動する場合があります。

インストルメント・パネル

インストルメント・パネルについて



1. タコメータ:

1分間あたりのエンジン回転数(RPM x 100)を表示します。

2. 温度計:

水温計は、エンジン・クーラントの温度を示します。水温計が正常な範囲内を示していれば、エンジンは正しく作動しています。

3. インstrument・パネル・ディスプレイ:

適切な条件であれば、このディスプレイはInstrument・パネル・ディスプレイ・メッセージを表示します。

イグニッションをオンにすると、ディスプレイには常にメイン・メニューのいずれかが表示されます。

4. 燃料ゲージ:

ゲージは、キーレス・プッシュ・ボタン・イグニッションが「ON/RUN」位置のとき、燃料タンク内にある燃料の残量を示します。



このフューエル・ポンプのマークは、車両のフューエル・リッドがある側を示しています。

5. スピードメータ: 車速を示します。

Instrument・パネル・ディスプレイの位置とスイッチ

Instrument・パネル・ディスプレイは、Instrument・パネルの中央にあります。

このシステムでは、ステアリング・ホイールの左側にあるInstrument・パネル・ディスプレイのコントロール・ボタンを押すことで、運転者は情報を選択できます。



Instrument・パネル・ディスプレイのコントロール・ボタン

● 左矢印ボタン

メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスするには、**左** ◀ 矢印ボタンを押して放します。

● 上矢印ボタン

メイン・メニュー項目を上方向にスクロールするには、**上** ▲ 矢印ボタンを押して放します。

● 右矢印ボタン

メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスするには、**右** ▶ 矢印ボタンを押して放します。

● 下矢印ボタン

メイン・メニュー項目を下方向にスクロールするには、**下** ▼ 矢印ボタンを押して放します。

● 「OK(自動)」ボタン

メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスしたり、選択するためには、**OK** ボタンを押します。**OK** 矢印ボタンを 2 秒間押し続けて、表示または選択されているリセット可能な機能をリセットします。

警告灯およびメッセージ

警告灯、表示灯、メッセージは、車両のさまざまな状態を示すために表示されます。例と詳細な説明については、クイック・スタート・ガイドまたはオーナー・マニュアルを参照してください。車両装備によりオプションとなる表示があります。

室内のコンフォート設定

ヒータ/エアコン

ヒータ/エアコン・システムにより、車内を循環している空気の温度、流れ、方向を調節できます。



Uconnect 5/5 NAV オートマッチック・エアコン

自動ヒータ／エアコンの説明および機能

「MAX A/C(急速冷房)」ボタン



タッチスクリーンのボタンを押して、システムを最大エアコン(A/C)に設定します。

「A/C(エアコン)」ボタン



このボタンを押して、エアコン(A/C)システムを作動させます。

「Recirculation(内気循環)」ボタン



内気循環モードと外気モードを切り替えるには、このボタンを押します。

SYNC ボタン



タッチスクリーンの「SYNC」ボタンを押すと、運転席と助手席の温度設定が同期されます。

「Auto(自動)」ボタン

希望の温度を設定した後にこの「AUTO(自動)」ボタンを押すと、システムは設定温度を維持します。

フロント・デフロスタ・ボタン

「Front Defrost(フロント・デフロスタ)」ボタンを押すと、現在の送風設定がデフロスタ・モードに変わります。

「Rear Defrost(リヤ・デフロスタ)」ボタン

Rear Defrost(リヤ・デフロスタ)ボタンを押して、リヤ・ウインドウ・デフロスタとヒータッド・ミラーをオンにします。

注意!

これらの注意事項に従わないと、電熱線が損傷する恐れがあります。

- リヤ・ウインドウの内側を清掃する際は注意してください。リヤ・ウインドウの内側表面に研磨剤入りのウインドウ・クリーナを使用しないでください。柔らかい布と中性洗剤液を使用して、電熱線と平行に拭きます。ガラスの上のラベルは、お湯に浸すと剥がせます。

(続き)

注意!

- リヤ・ウインドウの内側表面にスクレーパ、尖った工具、研磨剤入りのウインドウ・クリーナを使用しないでください。
- ウインドウの近くに物を置かないでください。

運転席および助手席温度コントロール

運転席または助手席側のトグル・スイッチを上下に押すか、温度バーをスライドさせて運転席と助手席の温度設定を調整します。

ファン・スピード・スイッチ

大小のファン・スピード切り替えスイッチまたはタッチスクリーンのファン・バーを使用して、ヒータ／エアコン・システムから吹き出される空気量を増減します。

モード・コントロール

タッチスクリーン、またはフェイスプレートのモード・ボタンの1つを押してモードを選択し、風向きのモードを変更します。

「エアコン OFF」ボタン

「OFF(オフ)」ボタンを押して、ヒータ／エアコン・システムをオフにします。

自動温度コントロール(ATC)

オートマテック操作

1. フェイスプレートの「AUTO(自動)」ボタンまたはタッチスクリーンの「AUTO(自動)」ボタンを押します。
2. トグル・スイッチまたはタッチスクリーンを使用して、希望の温度を選択します。これで車内は快適な状態に調整され、自動的に維持されます。

メモ:

車内が寒いときや暑いときでも温度設定を変える必要はありません。快適な状況をできるだけ早く提供するために、システムは自動的に温度、モードおよびファン・スピードを調整します。

手動操作オーバーライド

ヒータ/エアコン・システムには手動オーバーライド機能があります。システムが手動モードで使用されている場合、フロントの自動温度コントロール(ATC)ディスプレイ内のAUTO表示が消灯します。

エアコン音声認識

運転中にハンズフリーで車内の温度を調整できます。

ステアリング・ホイールの「VR(音声認識)」ボタンを押します。ビーブ音の後、以下のコマンドのいずれかを発声してください。

- 「Set driver temperature to 20 degrees(運転席温度を 20 度に設定)」
- 「Set passenger temperature to 20 degrees(助手席温度を 20 度に設定)」

フロント・シート・ヒータ - タイプ別装備



シート・ヒータのコントロール・ボタンは、タッチスクリーンの下のインストルメント・パネルの中央にあり、「Climate Control(ヒータ/エアコン)」タッチスクリーン・メニューにもあります。シート・ヒータ・ボタンを押すと、HI、MED、LO、オフの設定が切り替わります。

警告!

- 高齢、慢性疾患、糖尿病、脊髄損傷、薬物治療、アルコールの摂取、疲労、またはその他の生理的状態により、皮膚に痛みを感じる方ができない方は、シート・ヒータを使用する場合に注意が必要です。特に長時間使用した場合、低温やけどを起こす恐れがあります。
- 毛布やクッションなど、断熱効果のあるものを座席の上またはシート・バック表面に置かないでください。シート・ヒータが過熱する恐れがあります。過熱状態のシートに座り続けると、シートの表面温度が上昇して、重度のやけどを負う恐れがあります。

パワー・フロント・シート調整

パワー・シート・スイッチおよびパワー・シート・リクライニング・スイッチは、シートのドア側、フロア付近にあります。パワー・シート・スイッチを使用して、シートの高さ、角度、または前後位置を調節します。パワー・シート・リクライニング・スイッチを使用して、シート・バックの角度を調節します。

ランパ・サポートを強くするには、パワー・ランパ・スイッチの前方を押します。ランパ・サポートを弱くするには、スイッチの後方を押します。スイッチを上方へ押すとサポートが上昇し、下方へ押すとサポートが下降します。



パワー・シート・スイッチ

- 1 - パワー・ランパ・スイッチ
- 2 - パワー・シート・スイッチ
- 3 - パワー・リクライニング・スイッチ

警告!

シート・バックを倒し、ショルダ・ベルトが胸部から離れた状態で車を運転しないでください。衝突時、シートベルトの下で体が滑り、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

ヘッド・レスト

この車の運転席と助手席のヘッドレストは2段階に調節できることをご存じでしたか？

ヘッド・レストは、後方から追突されたときに頭部の動きを制限して負傷の危険性を低減します。ヘッド・レストは、ヘッド・レストの上端が耳の上端より上になるように調整してください。



ヘッド・レスト・ボタン

- 1 — 取り外しボタン
- 2 — 調整ボタン

- ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを上に取り外しボタンを押します。
- ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調整ボタンを押してからヘッド・レストを下に押し下げます。

リヤ・ヘッド・レスト - 2ドア車両

リヤ・シートには調整機能なし(格納式)のヘッド・レストが装備されています。



リヤ外側ヘッド・レスト・ストラップ

外側ヘッド・レストを格納するには、各リヤ・シートの上部外側にあるリリース・ストラップを引っ張ります。外側ヘッド・レストを格納するには、各リヤ・シートの上部外側にあるリリース・ストラップを引っ張ります。

リヤ・ヘッド・レスト - 4ドア車両

リヤ・シートには、調節不可(格納可)のドア側ヘッド・レストと、着脱式(調節可)のセンタ・ヘッド・レストが装備されています。

外側ヘッド・レスト



リヤ外側ヘッド・レスト・レバー

外側ヘッド・レストを格納するには、各リヤ・シートの上部にあるインナ・リリース・レバーを引っ張ります。ヘッド・レストを上向き位置に戻すには、所定の位置にはまるまでヘッド・レストを持ち上げます。

センタ・ヘッド・レスト

センタ・ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを引き上げます。センタ・ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調節ボタンを押してからヘッド・レストを下に押し下げます。

センタ・ヘッド・レストを外すには、ヘッド・レストのベース部にあるリリース・ボタンを押して、ヘッド・レストを上に取り外しボタンを押します。

ヘッド・レストを取り付けるには、リリース・ボタンを押した状態で、ヘッド・レストを下に押し下げます。

警告!

- 運転者を含むすべての乗員は、衝突時に首を損傷する危険性を最小限に抑えるために、ヘッド・レストを正しい位置に調節してから、車両を運転したり着座したりしてください。
- 車が動いているときには、ヘッド・レストを調整しないでください。ヘッド・レストの調整が不適切な状態で運転したり、取り外した状態で運転したりすると、衝突時に傷害や死亡事故につながる恐れがあります。

照明の操作

ヘッドライト・スイッチ

ヘッドライト・スイッチはインストルメント・パネルの左側にあり、照明の操作に使用します。



ヘッドライト・スイッチ

- 1 - インストルメント・パネルのイルミネーション・コントロール
- 2 - アンビエント・ライト・イルミネーション・コントロール (タイプ別装備)
- 3 - ヘッドライト・コントロール
- 4 - リヤ・フォグ・ライト・スイッチ
- 5 - フロント・フォグ・ライト・スイッチ

ヘッドライト・コントロール・ノブを回して、O(消灯)、駐車灯、ヘッドライト点灯、AUTO ヘッドライトのなかから使用できる位置を選択します。

オートマチック・ハイ・ビーム

この車は、接近している車両が視界から消えるまでハイ・ビームをロー・ビームに自動的に切り替えることをご存じでしたか？

自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御は、Uconnect の設定内の「Auto High Beam(オート・ハイ・ビーム)」にある「ON(オン)」を選択し、さらにヘッドライト・スイッチを「AUTO(オート)」位置にし、マルチファンクション・レバーをハイビーム位置してオンまたはオフにできます。

オート・ヘッドライト

エンジンが作動している状態で、ヘッドライト・コントロール・ノブが「AUTO(オート)」位置になっていることを確認します。車が車外の明るさを検知し、必要に応じてヘッドライトを点灯/消灯させます。

フロントガラス・ワイパ/ウォッシュ ヤ

フロントウィンドウ・ワイパ/ウォッシュ・コントロールは、ステアリング・コラム右側のフロントウィンドウ・ワイパ/ウォッシュ・レバーにあります。フロントウィンドウ・ワイパは、レバー端部にあるスイッチを回して操作します。



フロントガラス・ワイパ/ウォッシュ・レバー

フロントガラス・ワイパの作動

フロント・ワイパ

レバーの先端を、間欠設定を越えて最初の停止位置まで上に回すとワイパは低速で作動します。

レバーの先端を、間欠設定を越えて3番目の停止位置まで上に回すとワイパは高速で作動します。

フロントガラス・ウォッシャー

ウォッシャーを使用するには、フロントガラス・ワイパ・レバーをステアリング・ホイール側に引いて保持します。

ミスト

レバーを「MIST(ミスト)」位置まで回して放すと、ワイパが1回作動します。

メモ:

ミスト機能ではウォッシャー・ポンプは作動しないため、フロントウィンドウにウォッシャー液は噴射されません。フロントガラスにウォッシャー液を噴射するには、ウォッシュ機能を使用してください。

リヤ・ワイパ

フロントガラス・ワイパ・レバーを下方に回し(リバースにはシフトせず)、間欠リヤ・ワイパの作動/停止を切り替ええます。

警告!

フロントウィンドウの視界不良は、衝突事故につながります。他車や障害物を認識できません。寒冷時にフロントウィンドウが突然氷結しないように、ウォッシャーを使用する前にはデフロスタでフロントウィンドウを温めてください。

注意!

- 積雪時にはフロントガラス・ワイパ・ブレードが停止位置に戻るように、フロントガラスに積もった雪を必ず取り除いてください。フロントガラス・ワイパ・スイッチを

(続き)

注意!

「OFF(オフ)」にしてもブレードが停止位置に戻らない場合、ワイパ・モータが損傷するおそれがあります。

- 寒冷時は、エンジンを切る前に必ずワイパ・スイッチをOFFにしてワイパを停止位置に戻してください。ワイパ・スイッチがONのままではワイパがフロントガラスに凍りつく、車を再始動したときにワイパ・モータが損傷する恐れがあります。

クルーズ・コントロール・システム

一部の車両には、以下のようなアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)システムが装備されています。

- アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は、あらかじめ設定された速度を上限に車速を調整して、先行車との車間距離を維持します。

メモ:

ACC 搭載車で ACC が有効になっていない場合、定速クルーズ・コントロールは自車の直前の車両を検知しません。複数のクルーズ・コントロール機能を同時に作動させることはできません。

アダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC)

警告!

- アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は利便性を追求したシステムです。運転者による運転に代わるものではありません。路面、交通状況、天候、車速、車間距離に注意し、なによりもあらゆる道路状況でブレーキを操作し安全に運転することは、運転者の責任です。安全運転を行うためには、常に十分な注意力が欠かせません。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。
- ACC システムは:
 - 歩行者、対向車、静止物(渋滞で停止している車や故障車など)には反応しません。
 - 路面、交通状況、および天候を考慮に入れることはできず、視界の悪い状況では性能が制限される場合があります。
 - 複雑な運転条件では必ずしも認識が完全に行われるわけではなく、そのため車間距離の警告が正しくなかったり、警告が発せられないことがあります。
 - 先行車に追従している間に、車両を完全に停止し、2秒間車両をそのまま保持します。先行車が2秒以内に動き出さない場合、ACC システムは、システムによりブレーキが解除されるためブレーキ

(続き)

警告!

を手動でかける必要があるというメッセージを表示します。ブレーキが解除されるときにチャイムが鳴ります。

- 下記の状況では ACC システムを使用しないでください。
 - 霧、大雨、大雪、凍結路、交通量の多い場所、複雑な状況(高速道路の工事中現場など)の中を運転する場合
 - 右左折レーンや高速道路の出口ランプに入る場合、曲がりくねった道、凍結した道路、雪道、滑りやすい路面、勾配の大きい道を走行する場合
 - 勾配の大きい道でトレラをけん引する場合
 - 一定速度で走行するのが危険な状況である場合

クルーズ・コントロール ACC システムは(ステアリング・ホイールの右側にある)ボタンで操作します。



アダプティブ・クルーズ・コントロール・ボタン

- 1 - 距離設定(延長)
- 2 - SET(+)/加速
- 3 - CANCEL/キャンセル
- 4 - RES/再開
- 5 - ACC ON/OFF
- 6 - 定速クルーズ・コントロール ON/OFF
- 7 - 距離設定(短縮)
- 8 - SET(-)/減速

● 作動/停止するには

- アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の「ON/OFF(オン/オフ)」ボタンを押して放します。

警告!

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)システムを使用していないときに ON のままにしておく

(続き)

警告!

とは危険です。不意にシステムが設定されたり、予想以上の速度になることがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。システムを使用しないときは、常に OFF にしておいてください。

● 希望の ACC 速度を設定するには

- 車両が希望速度に達したときに、「SET +」ボタンまたは「SET -」ボタンを押して放します。インストルメント・パネル・ディスプレイに設定速度が表示されます。

警告!

定速クルーズ・コントロール・モードでは、システムは先行車には反応しません。さらに、先行車の存在や車間距離が検出されないため、先行車に近づきすぎても接近警報が作動せず、アラームも鳴りません。先行車との安全な車間距離を維持してください。選択されているモードに常に注意してください。

● 設定を解除するには

- システムを OFF にするには、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の「ON/OFF(オン/オフ)」ボタンをもう一度押して放すか、または車のイグニッションを OFF ポジションにします。

● 設定速度を復帰させるには

- ACC がキャンセルされ、メモリに設定速度がある場合は、RES(再開)ボタンを押します。

警告!

復帰機能は、交通状況と路面状態に注意して使用してください。設定速度が速すぎたり遅すぎたりするときに復帰機能を使用すると、そのときの交通量や路面状況によっては、車速を急に上げたり落としたりすることになるため危険です。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。

● 設定速度を変更するには

- 速度の設定後、「SET(設定)(+)」ボタンを押すと、設定速度が上ががり、「SET(設定)(-)」ボタンを押すと、設定速度が下がります。

● ACC での車間距離の設定

- 距離設定を長くするには、「Distance Setting - Increase(距離設定 - 延長)」ボタンを押して放しします。このボタンを押すたびに、距離設定はパー1本ずつ増加(延長)します。
- 距離設定を短くするには、「Distance Setting - Decrease(距離設定 - 短縮)」ボタンを押して放しします。このボタンを押すたびに、距離設定はパー1本ずつ減少(短縮)します。

パーキング・アシスト

ParkSense リヤ・パーキング・アシスト・システム

センタ・コンソール前方、ヒータ/エアコンの下にある ParkSense スイッチを使用して、ParkSense システムを有効または無効にできます。



ParkSense スイッチ

警告!

- 運転者は、ParkSense を使用している場合でも、バックの際に注意を怠らないでください。常に車両の後ろを注意深く確認し、自分の後方を見て、バックする前に歩行者、動物、他の車両、障害物、および死角を確認してください。安全な運転を心がけ、周囲の確

(続き)

警告!

認を怠らないようにします。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

- 車両をけん引目的に使用していないときは、ParkSense を使用する前に、ポール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリを取り外すことを強くお勧めします。そうしないと、連続的な警告音が鳴ったときにはヒッチ・ボールがリヤ・フェイスア/パンパよりも障害物に近づいているため、負傷したり、車両または障害物が破損したりする危険があります。また、ポール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリのサイズと形状によっては、車両の後方にある障害物としてセンサが誤認する場合があります。

注意!

- ParkSense は、あくまでも駐車をアシストするためのものであり、小さな物体など、すべての障害物を検知できるわけではありません。駐車用の緑石は、一時的に検知されたり、まったく検知されなかったりすることがあります。センサ上または下にある障害物は、すぐそばにある場合は検知されません。
- 障害物が検知されたらすぐに停止できるように、ParkSense 使用中はゆっくりと運転してください。ParkSense の使用中でも、肩越しに後ろを確認しながら運転することをお勧めします。

オフ・ロード機能

アクスル・ロック (AXLE LOCK) (TRU-Lok)、フロントおよびリヤ - タイプ別装備

アクスル・ロック・スイッチは、インストルメント・パネル(ステアリング・コラムの右側)にあります。



アクスル・ロック・スイッチ・パネル

この機能は、以下の条件が揃った場合に限り作動します。

- イグニッションが「RUN(走行)」位置にあり、車両が 4L に入っている。
- 車速が 10 mph (16 km/h) 以下。
- アクスルの右と左の両方のホイールが同じ速度である。

システムを作動させるには、「AXLE LOCK(アクスル・ロック)」スイッチを押し下げるとリヤ・アクスルのみがロックされ、スイッチを押し上げるとフロント・アクスルとリヤ・アクスルがロックされます。リヤ・アクスルがロックしたら、スイッチの下部をもう一回押すとフロント・アクスルがロックまたはロック解除されます。

アクスルのロックを解除するには、「AXLE LOCK OFF(アクスル・ロック・オフ)」ボタンを押します。

ギヤが 4L から解除されるか、またはイグニッション・スイッチを「OFF(オフ)」位置にすると、アクスル・ロックは解除されます。車速が 48km/h(30mph) 超になるとアクスルはロック解除され、車速が 16km/h(10mph) 未満になると自動的に再ロックされます。

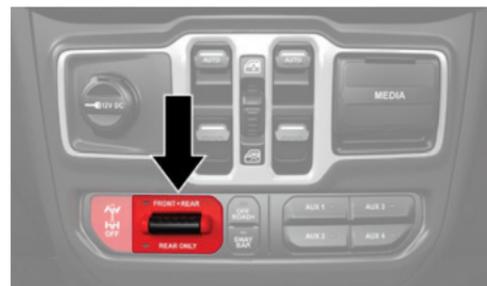
アクスル・ロック (AXLE LOCK) (TRU-Lok)、リヤのみ - タイプ別装備

適切な条件を満たす場合、リヤ・アクスルが 4H にロックされることがあります。

アクスル・ロック・スイッチは、インストルメント・パネル(ステアリング・コラムの右側)にあります。

警告!

このモードは、幹線道路以外の道またはオフ・ロードでのみ使用するためのものであり、公道で使用してはけません。



アクスル・ロック・スイッチ・パネル

この機能は、以下の条件が揃った場合に限り作動します。

- イグニッションが「RUN(走行)」位置にあり、車両が 4H に入っている。
- 車両の「Off Road+」が有効になっている。
- 車両が ESC「Full Off」モードになっている。
- 車両のホイール・スリップが大きい、または車両が急なカーブを曲がっている状態でないこと。

システムを起動するには、「AXLE LOCK(アクスル・ロック)」スイッチを押し下げ、リヤ・アクスルのみをロックします。リヤ・アクスルのロックを解除するには、「AXLE LOCK OFF(アクスル・ロック・オフ)」ボタンを押します。

車両の 4H が解除される、運転者が「Off Road+(オフ・ロード+)」をオフにする、ESC「Full Off(フル OFF)」モードでなくなる、またはイグニッション・スイッチが「OFF」にされると、アクスル・ロックは解除されます。一部の条件下に

おいて、リヤ・アクスル・ロック・システムがリヤ・ロッカーを一時的に解除することがあります。

電子制御式スウェイ・バー切り離し機能 — タイプ別装備

電子制御で切り離されるスタビライザ／スウェイ・バーが装備されている車両もあります。

システムを起動するには SWAY BAR スイッチを押します。システムを解除するにはスイッチを再度押します。スウェイ・バーが切り離されると、(インストルメント・パネルにある)「スウェイ・バー表示灯」が点灯します。起動時または作動条件が合致しない場合、「スウェイ・バー表示灯」は点滅します。スタビライザ／スウェイ・バーは、通常の走行条件ではオン・ロード・モードのままになります。



「SWAY BAR(スウェイ・バー)」スイッチ

警告!

硬い路面を走行する前に、または 29km/h(18mph)を超える速度で走行する前に、スタビライザ／スウェイ・バーが再接続されていることを確認してください。スタビライザ／スウェイ・バーが外れていると、車両の制御を失うことがあり、重傷を負う恐れがあります。特定の状況では、フロント・スタビライザ／スウェイ・バーは車両安定性を向上させ、車両の制御に役立ちます。このシステムは車速を監視し、速度が 29km/h(18mph)を超えたときにスタビライザ／スウェイ・バーを再接続します。これはスウェイ・バー表示灯の点滅または点灯で示されます。車速が 22km/h(14mph)を下回ると、システムは再度オフ・ロード・モードに戻ります。

メモ:

スタビライザ／スウェイ・バーは、左右サスペンションの高さの違いにより、トルクによってロックされることがあります。この状態は、路面の違いまたは積載重量によるものです。スタビライザ／スウェイ・バーを切り離して再度接続するには、左右のバーの高さを揃えてください。この調整を行うには、車両を水平面で走行させるか、左右に揺らさなければなりません。

警告!

スタビライザ／スウェイ・バーがオン・ロード・モードに戻らない場合は、「スウェイ・バー表示灯」がインストルメント・パネルで点滅し、車両安定性が低下することがあります。29km/h(18mph)を超える速度で運転しないでください。スタビライザ／スウェイ・バーを外した状態で

(続き)

警告!

29km/h(18mph)を超えて運転しないでください。車両の制御を失うことがあり、重傷を負う恐れがあります。

OFF ROAD+(オフ・ロード+) - タイプ別 装備

Off Road+(オフ・ロード+)を作動させるには、4WD のときに、スイッチ・バンクにある「OFF ROAD+(オフ・ロード+)」スイッチを押します。

Off Road+(オフ・ロード+)が有効になると、以下の機能が有効になります。

- インストルメント・パネル・ディスプレイに「Off Road+(オフ・ロード+)」表示灯が点灯します。
- インストルメント・パネル・ディスプレイには、モードに応じたメッセージが表示されます。
- ラジオ設定で選択されている場合、ラジオのヘッドユニットに「Off-Road(オフ・ロード)」ページが起動します。
- ラジオ設定で選択されている場合、TrailCam システムが起動します。



OFF ROAD+(オフ・ロード+)スイッチ

Off Road+(オフ・ロード+)が有効になると、使用中の4WDモードに応じて、車両の挙動が変化ようになります。

エクステリアの概要



1 – スイング・ゲート・リリース・ボタン

2 – エクステリア・カメラの位置 ⇨ ページ 24

3 – 緊急用けん引フック ⇨ ページ 34

エクステリア・カメラの表示

後方カメラ

ParkView リア・バックアップ・カメラは、ギヤ・セレクトを「R(リバース)」に入れるたびに車両後方の周辺画像を画面に表示します。

リヤ・ビュー・カメラの手動作動:

1. Uconnect ディスプレイにある「Vehicle(車両)」ボタンを押して、「Camera(カメラ)」タブを選択します。
2. リヤ・ビュー・カメラ・システムを ON にするには、「Back Up Camera(後方カメラ)」ボタンを押します。

警告!

ParkView リア・バックアップ・カメラを使用している場合でも、車両をバックさせるときは注意が必要です。常に車両の後ろを注意深く確認し、バックする前に歩行者や動物、他の車両、障害物がないか注意し、死角を確認してください。周囲の安全に注意を払い、バックする際には常に注意する必要があります。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

- 車両の損傷を防ぐために、ParkView リア・バックアップ・カメラは駐車補助装置としてのみ使用してください。ParkView リア・バックアップ・カメラでは、進路上

(続き)

注意!

のすべての障害物や物体を検知できるわけではありません。

- 車両の損傷を防ぐため、ParkView リア・バックアップ・カメラ使用中は、障害物を検知した場合に停止できるようにゆっくり走行してください。ParkView リア・バックアップ・カメラ使用中でも、肩越しに後ろを頻繁に確認しながら運転することをお勧めします。

ボンネット

ボンネットを開けるには

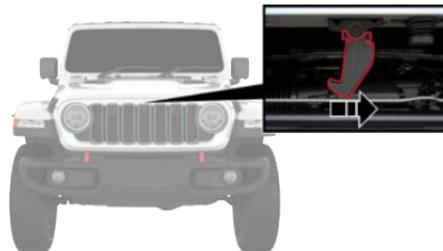
警告!

- **ハイブリッド・モデルの場合:**ボンネットを開ける前には、必ず電源ボタンを「OFF(オフ)」位置にしてください。
- 走行後や充電後もしばらくは非常に高温の状態が続く箇所があり、触れると重度の火傷を負う恐れがあります。
- ボンネットを開いているときは、手、工具、衣類、および装身具をラジエータ冷却ファンに近づけないでください。冷却ファンは、充電中を含め、いつでも作動し始めることがあります。回転するファンに手や衣服が巻き込まれ、重傷を負う恐れがあります。

ボンネットを開けるには:

1. 外側のボンネット・ラッチを両方とも解除します。

2. ボンネットを少し上げ、ボンネット開口部の中央に手を手のひらを下にして入れます。中央の安全ラッチの場所を確認し、ラッチを右に押し開けます。



安全ラッチの位置

3. ボンネットからサポート・ロッドを取り外し、ラジエータのクロスメンバに挿入します。

メモ:

- 車両が静止し、ギヤ・セレクトが「P(パーキング)」に入っている必要があります。
- ボンネットを上げる前に、ワイパ・アームが作動状態ではなく、上昇位置にないことを確認してください。
- ボンネットを上げるときは、両手を使用してください。
- うまくいかない場合は、ボンネットを若干押し下げてから、安全ラッチを押ししてください。

警告!

車両を運転する前に、ボンネットのラッチが完全にかかっていることを確認してください。ボンネットがラッチでしっかりと固定されていないと、走行中にボンネットが開き、視界を遮る恐れがあります。ここに示す警告内容に従わないと、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

ボンネットを乱暴に閉めないでください。ボンネットが損傷する恐れがあります。

ボンネットを閉じるには

ボンネットを閉じるときは、サポート・ロッドをスロットから外して、ボンネット・パネル固定クリップに留めてください。ボンネットを静かに下げてください。ボンネット・ラッチを両方ともしっかりと固定してください。

警告!

車両を運転する前に、ボンネットのラッチが完全にかかっていることを確認してください。ボンネットがラッチでしっかりと固定されていないと、走行中にボンネットが開き、視界を遮る恐れがあります。ここに示す警告内容に従わないと、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

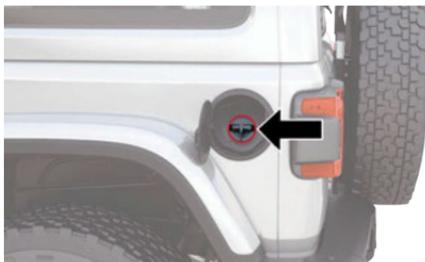
注意!

ボンネットを乱暴に閉めないでください。ボンネットが損傷する恐れがあります。

車両への給油

フューエル・フィラ・キャップは、車の運転席側にあります。フューエル・フィラ・キャップを紛失したり破損したりした場合は、新しいフューエル・フィラ・キャップが車両に適合していることを必ず確認してください。

1. フューエル・フィラ・リッドを開けます。
2. フューエル・キャップを反時計回りに回転させて取り外します。



フューエル・フィラ・キャップ

3. フィラ・パイプにフューエル・ノズルをいっぱいまで差し込みます。
4. 車両に給油します。

メモ:

- 給油ノズルからカチッという音が聞こえるか、または給油が止まった時点で燃料タンクは満タンです。
 - フューエル・ノズルを取り外す前に、5秒待って余分な燃料をノズルから排出させます。
5. フューエル・ノズルを取り外し、フューエル・キャップを取り付けて、フューエル・フィラ・リッドを閉じます。

警告!

- フューエル・リッドが開いているときやタンクに給油しているときには、決して車内や車周辺にタバコなどの火気を近づけないでください。
- エンジン作動中は、絶対に給油しないでください。これはほとんどの国で違法であるため、この行為を行うと、「エンジン警告灯」が点灯します。
- 車内に置かれた携帯用容器に直接燃料を給油すると火事の原因になり、やけどをする恐れもあります。給油中はガソリン容器を車外に出し、地面に置いてください。

注意!

- 不適切なフューエル・フィラ・キャップを使用すると、フューエル・システムまたはエミッション・コントロール・システムが損傷する恐れがあります。キャップを正しく取り付けないと、フューエル・システムに不純物が混入することがあります。また、しっかりと閉まらない市販のキャップを使用すると、気化した燃料がシステムか

(続き)

注意!

ら抜けることにより、エンジン警告灯(MIL)が点灯する場合があります。

- ガソリンが飛び散ったり溢れたりしないように、給油の際には燃料タンクの給油口いっぱいまでガソリンを入れないでください。

メモ:

- 給油ノズルからカチツという音が聞こえるか、または給油が止まった時点で燃料タンクは満タンです。
- フューエル・フィラ・キャップをカチツという音がするまで約 1/4 回転して締め付けます。この音により、キャップが適切に締め付けられたことがわかります。
- フューエル・フィラ・キャップが適切に締められていないと、MIL が点灯します。毎回給油するたびに、フューエル・フィラ・キャップが締められていることを確認してください。

SOS - 緊急通話 - タイプ別装備

車両には、事故および／または緊急時にサポートを提供する車載アシスタンス機能が備えられています。この機能は、エアバッグが作動すると自動的に作動し、またオーバーヘッド・コンソールにあるボタンを押すことで手動で作動させることもできます。

メモ：

SOS 緊急通話は、有効なネットワーク・オペレータとのみ通話できます。



SOS-Emergency Call (SOS 緊急通話) ボタン

SOS 緊急通話システムは、エアバッグが作動する事故が発生した場合、イグニッション装置が「RUN(走行)」位置にあり、エアバッグが作動していれば、通話を緊急サービスに自動的に転送します。オーバーヘッド・コンソールの「SOS」ボタンを押すと、ボタンのライトが点灯します。車両と緊急応答オペレータの間で接続が確立されると、位置と

車両情報が自動的に緊急サービス・オペレータに送信されます。

緊急応答オペレータしか、リモートで SOS 緊急通話を終了し、必要に応じて緊急通話システムを介して車両に電話をかけ直すことができません。通話が終了しても、ボタンを再度押しすと、緊急サービス・オペレータに電話をかけて追加の情報を伝えることができます。

SOS 緊急通話を使用するには

「SOS-Emergency Call(SOS 緊急通話)」ボタンを数秒間長押しします。SOS ボタン内にある LED が 1 回点滅した後、点灯したままになり、通話が確立されたことを示します。

メモ：

「SOS-Emergency Call(SOS 緊急通話)」ボタンを誤って押した場合でも、通話が確立されるまでに 10 秒間の遅延があります。通話が確立されようとしていることをシステムが音声で警告します。通話の確立を取り消すには、「SOS-Emergency Call(SOS 緊急通話)」ボタンを再度押しします。

車両と緊急サービス・オペレータとの間で接続が確立されると、SOS 緊急通話システムは、以下の重要な車両情報をオペレータに送信します。

- 乗員が SOS 緊急通話を発信したという表示
- 車両識別番号 (VIN)
- 識別された車両の最新の GPS 座標

次に、緊急サービス・オペレータと会話をして、追加の支援が必要かどうかを判断できます。

SOS 緊急通話は、他の音声ソースよりも優先されるため、これらの音声ソースは消音になります。Bluetooth® 経由で携帯電話を接続している場合は接続が解除され、SOS 緊急通話の終了時に再接続されます。SOS 緊急通話時は、音声プロンプトが案内します。緊急サービス・オペレータと車両の間で接続が確立されると、緊急サービス・オペレータが車両内の会話や音声を録音することがあり、サービスを使用することで、これらの情報が共有されることに同意したことになります。

SOS 緊急通話システムの制限事項

イグニッションを「RUN(走行)」位置に入れると、緊急通話システムは通常チェックを実行します。このチェックの間、赤色の表示灯が約 3 秒間点灯します。この点灯を故障警告と混同しないでください。故障が発生した場合は、赤色の表示灯が点灯したままになります。SOS 緊急通話システムが誤動作を検知した場合、検知時に次のような状態になる場合があります。

- SOS ボタン内の LED が赤色で点灯し続けます。
- 緊急通話システムは、車両のバッテリーが放電または切断された場合でも動作を確保するために、独自の非充電式バッテリーから電源を供給されます。システムのバッテリーが放電すると、インストルメント・パネル・ディスプレイに特別なメッセージが表示されます。これは、他のタイプの障害を示す他のメッセージとは異なります。この場合、システムが動作するのは、車両バッテリーから電源が供給されるときのみです。
- インストルメント・パネルには、故障警告灯とともにサービス・ネットワークに連絡するように警告するメッセージが表示されます。

SOS 緊急通話システムが完全に機能している場合でも、外部または制御されていない要因により、SOS 緊急通話の動作が妨げられたり、停止したりすることがあります。このような取扱いの対象となる問題の例を次に挙げます。

- イグニッションが「OFF(オフ)」の位置にある。
- 車両の電子システムが作動しない。
- 車両の衝突時に、SOS 緊急通話システムのソフトウェアまたはハードウェアが損傷した。
- サービスの運用を制限または損なう可能性のあるネットワークの問題がある(オペレータによる間違い、ネットワークの混雑、悪天候など)。

衝突などの事故により車両のバッテリー接続が外れた場合、システムは限られた時間、SOS 緊急通話をサポートできます。使用中にバッテリーが切断されると、システムはオフになります。この場合、バッテリーを車両の電気系統に再接続したときのみ、SOS 緊急通話を行うことができます。

システム要件

- 車両で 3G ネットワーク接続が使用できる必要があります。
- 車両は適切に動作する電気系統から電源が供給されている必要があります。
- イグニッションは「ON/RUN(オン/走行)」または「ACC」位置にする必要があります。

警告!

- 車両の 3G および GPS のアンテナの上または近くには何も置かないでください。3G および GPS 信号を受信できなくなり、車両が緊急通話を発信できなくなります。SOS 緊急通話システムを正常に機能させるために、動作可能な 3G ネットワーク接続および GPS 信号が必要です。
- 車両の電気系統に市販の電装品を追加しないでください。これにより、緊急通話を開始する信号を車両が送信できなくなる恐れがあります。SOS 緊急通話システムが機能しなくなる干渉を避けるために、アクセサリ部品(移動式双方向無線機、CB 無線機、データレコーダなど)を車両の電気系統に追加したり、車のアンテナを改造したりしないでください。事故時や事故後を含むいかなる理由にせよ、車両バッテリーの充電が消耗した場合、MTC+機能(特にアプリケーションとサービス)は動作しません。
- エアバッグ・システムのどこかに不具合が検出されると、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)によってインストルメント・パネルのエアバッグ警告灯が点灯されます。エアバッグ警告灯が点灯した場合、エアバッグ・システムが正常に動作していない可能性があり、SOS 緊急通話システムは緊急サービスのオペレータに信号を送信できないことがあります。エアバッグ警告灯が点灯した場合は、直ちにサービス・ネットワークに問い合わせたエアバッグ・システムの点検を受けてください。
- SOS 緊急通話ボタンの LED を無視すると、必要ときに緊急通話サービスが利用できなくなります。緊

(続き)

警告!

- 急通話ボタンの LED が赤く点灯している場合は、直ちにサービス・ネットワークに問い合わせた緊急通話システムの点検を受けてください。
- 乗員に危険が及ぶ恐れがある場合(火災や煙の発見、危険な路面状況や場所など)は、直ちに緊急サービスのオペレータに電話をかけてください。すべての乗員は直ちに車から離れて安全な場所に移動する必要があります。
- 定期メンテナンスを実施しなかったり、車両を定期的な点検しなかった場合は、車両が損傷したり、事故が起きたり、負傷したりすることがあります。

よくある質問:

誤って「SOS-Emergency Call(SOS 緊急通話)」ボタンを押すとどうなりますか?

- 緊急ボタンを押してから通話を取り消すまでに 10 秒間の余裕があります。通話を取り消すには、このボタンを再度押してください。

自分の車両から SOS 緊急通話をしているときに、どのような情報が送信されますか?

- VIN などの特定の車両情報が、直前の GPS 位置とともに送信されます。緊急サービス・オペレータが車両内の会話や音声を録音することがあり、サービスを使用することで、これらの情報が共有されることに同意したことになることにも注意してください。

「SOS-Emergency Call (SOS 緊急通話)」ボタンは、いつ使用できますか？

- SOS-Emergency Call (SOS 緊急通話) ボタンは、ご自身や他の誰かが緊急支援を必要とする場合にのみ使用してください。



ジャッキ・アップとタイヤ交換

ジャッキ作業の準備

1. 固い平らな場所に駐車します (氷や滑りやすい場所は避けてください)。
2. 必要に応じて、車両後方に三角表示板を設置します。

警告!

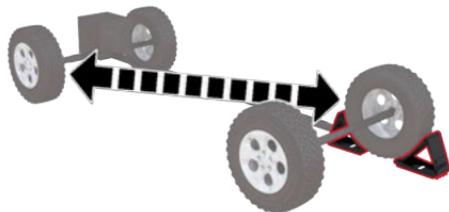
車道側にあるタイヤの交換は行わないでください。ジャッキ操作やタイヤ交換は、作業中に事故に遭わないよう、車道から十分離れた安全な場所で行ってください。

4. 非常点滅表示灯を点灯します。



5. パーキング・ブレーキをかけます。
6. イグニッションを「OFF (オフ)」位置にします。

7. ジャッキで持ち上げるタイヤの対角線上に位置するタイヤの前後をブロックで輪留めします。たとえば、運転席側フロント・タイヤを交換する場合は、助手席側リヤ・ホイールをブロックで輪留めします。



ホイールをブロックした状態

メモ:

- 車を持ち上げる時は、乗員に車から降りてもらってください。
- 車道側にあるタイヤの交換は行わないでください。ジャッキ操作やタイヤ交換は、作業中に事故に遭わないよう、車道から十分離れた安全な場所で行ってください。

ジャッキ・アップ位置

ジャッキとホイール・ナット・レンチは、リヤ・カーゴ・エリアにあります。ジャッキとツールを取り外すには、以下の手順に従ってください。

1. カーゴ・エリアのロード・フロアを持ち上げます。

メモ:

手が届きやすくするためロード・フロアを取り外すには、ロード・フロア・ハンドルを引き上げて真後ろに引きます。

2. 左側のラッチをつまみ、上方に引っ張って、ハードウェア・ストレージ・カバーを取り外します。



ハードウェア・ストレージ・カバーのラッチ

3. プラスチック製ウイング・ナットを反時計回りに回して、ジャッキをストレージ・ビンから緩めます。
4. ツール・キットを取り外し、ツールを組み立てます。

スペア・タイヤの取り外し

1. キャリアからスペア・タイヤを取り外すには、タイヤ・カバーを取り外します (タイプ別装備)。
2. 付属ツール・キットの#T40 Torx ヘッド・ドライバとラチェットを使用して、ロック・ボルトを反時計回りに回し、リヤ・カメラ・カバーを取り外します。

- ホイール・ナット・レンチでホイール・ナットを反時計回りに回して取り外します。ロック・キー(グローブ・ボックスにある)でロック・ホイール・ナットを反時計回りに回して取り外します(タイプ別装備)。

ジャッキ作業の手順

警告!

人身事故または物損事故を防ぐためにタイヤ交換時の警告に従ってください。

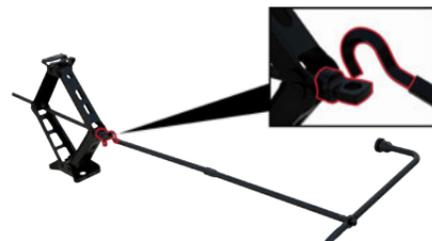
- 車道脇からできるだけ離れた固く平らな地面に駐車してから、車を持ち上げるようにしてください。
- 非常点滅表示灯を点灯します。
- パーキング・ブレーキをしっかりとかけ、オートマチック・トランスミッションを「P(パーキング)」位置にします。マニュアル・トランスミッションはリバースにします。
- 持ち上げる車輪の対角線上に位置する車輪をブロックで輪留めします。
- ジャッキで持ち上げた車のエンジンは始動させないでください。
- ジャッキで持ち上げられた車には人がいないようにしてください。
- ジャッキで持ち上げられた車の下に入らないようにしてください。入る必要がある場合は、リフトが設置されているガソリン・スタンドなどをご利用ください。

(続き)

警告!

- ジャッキは指定された位置に設置し、本車両を持ち上げてタイヤを交換する場合にのみ使用してください。
- 車道またはその近辺で作業を行う場合は、交通に十分注意してください。
- スペア・タイヤは空気圧の状態にかかわらず確実に固定されるように、バルブ・ステムを下向きにして収納する必要があります。
- ジャッキは緊急用の道具です。メンテナンスには使用しないでください。ジャッキ・ハンドルを無理に回すと、ジャッキ・ハンドル・バーとジャッキの接続部が外れて車両を損傷する恐れがあります。ゆっくり、慎重に作業してください。

1. 格納場所からスペア・タイヤ、ジャッキ、および工具を取り外します。
2. ホイールが地面に着いている状態で、ナットを左に1回転させてホイール・ナットを緩めます(取り外さないでください)。
3. ジャッキとジャッキ・ツールを組み立てます。ジャッキ・ハンドル・ドライブをエクステンションに接続し、次にホイール・ナット・レンチに接続します。



組み立てたジャッキと工具

メモ:

工場出荷時に 88.9cm(35 インチ)タイヤが装着された車両の場合、リヤ・カーゴ・エリアにジャッキ・リフト・ブロックが用意されています。ジャッキ・リフト・ブロックは、パンクしたタイヤまたはスペア・タイヤを交換する際に車両の地上高を上げるために使用します。ジャッキ・リフト・ブロックをジャッキの下に置くと、ジャッキの底がブロックの高くなった縁の内側にしっかりとハマっていることを確認してください。

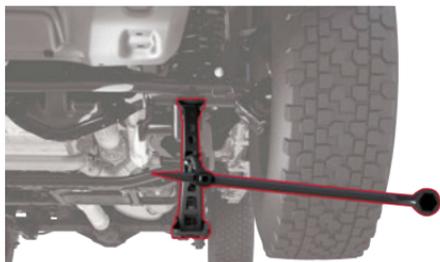
4. 車の前部または後部からジャッキを操作します。ジャッキを図のようにアクスル・チューブの下に入れます。ジャッキが**確実に**はまっているのを確かめるまで、車両を持ち上げないでください。

メモ：

車両を持ち上げている間はジャッキと工具の位置を合わせて、工具を損傷しないようにしてください。

注意！

指定のジャッキ・アップ位置以外からジャッキで車両を持ち上げないでください。



フロント側ジャッキ位置



リア側ジャッキ位置

5. ジャッキ・スクリュを時計回りに回して車両を上げます。タイヤが地面から少し浮き、スベア・タイヤの取り付けに十分な高さになるまで車を持ち上げます。持ち上げる高さを最小限にとどめると、安定した状態が最大限保たれます。

警告！

車体を必要以上に高く持ち上げると不安定になり、ジャッキからずり落ちるので危険です。車がジャッキから滑り落ちて、近くにいる人がけがをする恐れがあります。車体はタイヤを取り外すために必要な高さだけ持ち上げてください。

6. ホイール・ナットおよびホイールを取り外します。
7. アクスルにスベア・タイヤを取り付けます。
8. 円錐形端部をホイール側に向けてホイール・ナットを取り付けます。ラグ・ナットを時計回りに軽く締めます。

警告！

力を加えると車がジャッキから滑り落ちる恐れがあるため、車体を降ろすまでホイール・ナットは完全に締め付けしないでください。この警告に従わないと、重傷を負う恐れがあります。

9. ジャッキ・スクリュを反時計回りに回して車両を降ろし、ジャッキを取り外します。
10. ホイール・ボルトを締め付けます。力を加えやすいように、ハンドルの端を持ってレンチを押し下げます。ホイール・ボルトを対角順に2回に分けて締め付けます。トルク値が正しいかどうか不安な場合は、ジープ正規ディーラーまたはガソリン・スタンドで、トルク・レンチを使用して点検してください。
11. 40km(25 マイル) 走行後に、トルク・レンチを使用して、ホイール・ナットのトルクを点検し、すべてのホイール・ナットがホイールに正しく装着されていることを確認してください。
12. ジャッキ・アッセンブリと輪留めを取り外します。
13. ジャッキおよび工具を適切な位置に固定します。
14. 損傷したホイール／タイヤは、スベア・タイヤ・キャリアに固定します。ホイール・ナットおよびロッキング・ホイール・ナットを締め付けます。
15. 付属の#40 Torx ヘッド・ドライバおよびラチェットを使用してロックを時計回りに回して、ロック・ボルトをカメラ・カバーのロック位置に戻します。次に、所定の位置に止まるまでカメラ／タイヤ・キャリアの上をすべらせてカメラ・カバーを取り付けます。

警告!

タイヤまたはジャッキが固定されていないと、衝突または急停止の際に前方へ飛び出して、乗員がけがをする危険性があります。ジャッキ部品およびスペア・タイヤは、必ず指定の場所に収納してください。

ジャンプ・スタート — ガソリン・モデル

バッテリーが放電した場合には、ジャンプ・ケーブルを他の車両のバッテリーに接続するか、補助バッテリーを使用して、ジャンプ・スタートを行うことができます。ジャンプ・スタートは正しく行わないと危険です。このセクションの手順を遵守してください。

警告!

バッテリーが凍結している場合は、ジャンプ・スタートを行わないでください。バッテリーが破裂または爆発してけがをする恐れがあります。

注意!

12V を超える補助バッテリーや他の補助電源を使用しないでください。使用した場合、バッテリー、スターター・モーター、オルタネーター、または電気系統が損傷する恐れがあります。

メモ:

補助バッテリーを使用する場合は、メーカーの取扱説明ならびに注意事項を遵守してください。

ジャンプ・スタートの準備 — ガソリン・モデル

バッテリーは、エンジン・ルームの左後方にあります。



バッテリーのプラス(+)端子の場所

以下の手順を参照してジャンプ・スタートの準備を行います。

1. パーキング・ブレーキをかけ、オートマチック・トランスミッションを「P(パーキング)」にシフトして、イグニッション・スイッチを「OFF(オフ)」位置にします。
2. ヒーター、ラジオなど、電装品をすべて OFF にします。
3. プラス(+)バッテリー端子の保護用カバーを引き上げて外します。

4. 他の車両のバッテリーに接続してジャンプ・スタートを行う場合は、ジャンプ・ケーブルが届く位置に救援車両を停車してパーキング・ブレーキをかけ、必ずイグニッション・スイッチを「LOCK」位置にします。

警告!

- アースがつながって、けがを負う恐れがあるので、車両同士が接触しないように注意してください。
- ボンネットが開いているときは、ラジエータの冷却ファンに触れないように気を付けてください。イグニッション・スイッチが ON になると、直ちに始動します。回転するファン・ブレードで、けがをする恐れがあります。
- 感電の恐れのある腕時計およびブレスレットなどの金属製装身具は外してください。重傷につながる恐れがあります。
- バッテリーには、皮膚および目に触れるとやけどの原因となる硫酸が含まれています。また硫酸は、可燃性および爆発性の水素ガスを発生させる恐れもあります。バッテリーの近くに火または火気を近づけないでください。

ジャンプ・スタート手順 — ガソリン・モデル

警告!

このジャンプ・スタート手順に従わないと、バッテリーが爆発してけがを負うか、物損事故につながる恐れがあります。

注意!

この手順に従わないと、救援車両または故障車両の充電システムを損傷する恐れがあります。

ジャンパ・ケーブルの接続

1. ジャンパ・ケーブルのプラス(+)側を、故障車両のバッテリーのプラス(+)端子に取り付けます。
 2. プラス(+)のジャンパ・ケーブルのもう一方を、補助バッテリーのプラス(+)端子に接続します。
 3. ジャンパ・ケーブルのマイナス(-)側を、補助バッテリーのマイナス(-)端子に取り付けます。
 4. マイナス(-)のジャンパ・ケーブルのもう一方の端部を、エンジン・アースに正しく取り付けます。アースとは、アクセサリ・ブラケットや大径ボルトなどエンジン、フレーム、シャーシの露出した金属/未塗装の部分のことです。アースは、バッテリーやフューエル・インジェクション・システムから離れていなければなりません。
5. 救援車のエンジンを始動させ、エンジンを数分間アイドリングします。次にバッテリーが放電した車両のエンジンを始動します。

警告!

放電したバッテリーのマイナス(-)端子にジャンパ・ケーブルを接続しないでください。電気火花が発生するとバッテリーが爆発してけがを負う恐れがあります。

6. エンジンの始動後は、接続解除手順に従ってください。

ジャンパ・ケーブルの取り外し

1. ジャンパ・ケーブルのマイナス(-)側を、故障車両のエンジン・アース部から取り外します。
2. マイナス(-)ジャンパ・ケーブルの反対側を、補助バッテリーのマイナス(-)端子から取り外します。
3. ジャンパ・ケーブルのプラス(+)側を、補助バッテリーのプラス(+)端子から外します。
4. プラス(+)ジャンパ・ケーブルの反対側を、救援車両のバッテリーのプラス(+)端子から外し、保護カバーを再度取り付けます。

注意!

車両の電源コンセントに接続するタイプのアクセサリ(携帯機器など)は、使用していてもバッテリー電源を消耗します。エンジンがかかっている状態で長時間プラグを差し込んだままにしておくと、車のバッテリーが放電してバッテリーの寿命を縮めたり、エンジン始動に支障をきたすことがあります。

ジャンプ・スタートを頻繁に行う必要がある場合は、ジープ正規ディーラーでバッテリーおよび充電システムの点検を受けてください。

スタックからの脱出

泥、砂、または雪の中で動きが取れない場合、車を前後に揺り動かすと脱出できることがよくあります。ステアリング・

ホイールを左右に回して、フロント・タイヤ周辺から障害物を取り除きます。オートマチック・トランスミッション装備車の場合、ギヤ・セレクトのロック・ボタンを押し続けます。次に、アクセル・ペダルを少し踏み込みながら、「D(ドライブ)」と「R(リバース)」に交互にシフトします。タイヤをスピニングさせたり、エンジンを空吹かししたりしないで、車両を前後に揺り動かしながら続けることができるように、少しかだけアクセル・ペダルを踏みます。

メモ:

- オートマチック・トランスミッション装備車の場合: 「D(ドライブ)」と「R(リバース)」間のシフトは、ホイール速度が8km/h(5mph)以下でのみ可能です。トランスミッションが2秒間を超えて「N(ニュートラル)」に入っている場合は、必ずブレーキ・ペダルを踏んで「D(ドライブ)」または「R(リバース)」に入れなければなりません。
- 車両を揺り動かす前に、「ESC OFF(ESC オフ)」ボタンを押し、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC)システムを「パーシャル OFF」モードに切り替えます。車両がスタックから脱出したら、「ESC OFF(ESC オフ)」ボタンをもう一度押して、「ESC ON」モードに戻します。

警告!

タイヤの高速空転は危険です。過度のホイール回転速度によって生じる力でアックスルおよびタイヤの破損または故障が発生する恐れがあります。タイヤが破裂し、人にけがを負わせる場合もあります。ぬかるみなどで動かなくなった場合は、車のタイヤを48km/h(30mph)を超える速度で、または30秒以上連続して空転させない

(続き)

警告!

ください。また、回転速度に関係なく、空転しているタイヤ付近に人が近づかないようにしてください。

注意!

- エンジンの高回転やタイヤの空転は、トランスミッションの過熱および故障の原因になる恐れがあります。この前後に揺する動きを5回行う度に、トランスミッションを「N(ニュートラル)」に入れて、1分以上、エンジンをアイドリングさせてください。これにより、立ち往生した車を長時間かけて脱出させる場合に、クラッチやトランスミッションが過熱したり、故障したりする危険性を低減します。
- 立ち往生した車を、「D(ドライブ)」/1速ギヤと「R(リバース)」を交互にシフト・チェンジしながら「揺り動かして」スタック状態から脱出させる場合、24km/h(15mph)以上の速度で車輪を回転させないでください。駆動装置が破損する恐れがあります。
- エンジンの高回転やタイヤの空転は、トランスミッションの過熱および故障につながる恐れがあります。また、タイヤの損傷の原因にもなります。ギヤを入れた状態で48km/h(30mph)を超える速度でタイヤを空転させないでください(トランスミッションは変速しません)。

走行不能車両のけん引

このセクションでは、走行不能車両を一般のけん引サービスを使用してけん引する手順について説明します。

トランスミッションと駆動系が作動する場合は、説明している方法で走行不能な4X4車両をけん引することもできます。

けん引の条件	地面から離れている車輪	4WD MODELS
4輪すべてが地面に着いている状態でけん引	なし	禁止
ホイール・リフト装置またはけん引用台車	フロント	禁止
	リヤ	禁止
フラットベッド	すべて	最適な方法

メモ:
車両のけん引を行う場合は、適用される法令に必ず従ってください。詳細については、州の高速安全局にお問い合わせください。

車両の損傷を防ぐには、適切なけん引またはリフト装置を使用する必要があります。専用のけん引バーおよび他の装置のみを装置メーカーの指示に従って使用してください。必ず安全チェーンを使用します。けん引バーまたは他のけん引装置を、車両のメイン・ストラクチャル・メンバに取り付けます。フェイスア／バンパや関連するブラケットには取り付けないでください。車両のけん引に関する法令を遵守してください。

けん引中に、アクセサリ(ワイパ、デフロスタなど)の使用が必要な場合、イグニッション・スイッチは、「ACC」位置ではなく、「ON/RUN」位置にしてください。

車両のバッテリーが放電している場合、車両を移動するにはオートマチック・トランスミッションを「P(パーキング)」からシフトする手順を参照してください。

注意!

- けん引時は、スリング・タイプの装備を使用しないでください。車両が損傷する恐れがあります。
- 車両をフラット・ベッド・トラックに固定する場合は、フロントまたはリヤ・サスペンション構成部品で固定しないでください。不適切にけん引すると、車両を損傷する恐れがあります。
- けん引されている車両の進路変更が必要な場合には、イグニッション・スイッチを「OFF(オフ)」モードではなく、「ACC」または「ON/RUN(オン/走行)」モードに入れてください。

緊急時のけん引

イグニッション・キー・フォブがない場合

イグニッションをオフ・モードにして車をけん引する場合は、特別な注意が必要です。キー・フォブがない場合、フラット・ベッド・トラックを使用する以外のけん引方法は認められません。車両への破損を防ぐには、適切なけん引装置を使用する必要があります。

手動パーキング解除

(バッテリー上がりなど)トランスミッションを「P(パーキング)」位置からシフトできない場合に車を移動するため、手動パーキング解除を利用できます。

警告!

手動パーキング解除を有効にする前に、必ずパーキング・ブレーキを完全にかけてください。また、手動パーキング解除を有効にする際は、運転席で必ずブレーキ・ペダルにしっかりと足を乗せて座るようにします。パーキング・ブレーキまたはけん引車両への適切な連結によって車両が動き出さないようになっていない場合、手動パーキング解除を有効にすると、車両が勝手に動き出します。動き出さないようになっていない車両で手動パーキング解除を有効にすると、乗員または車両の周囲にいる人の重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

手動パーキング解除を使用するには、以下の手順を参照してください。

1. パーキング・ブレーキをしっかりとかけます。
2. 小型のドライバまたは同様のツールを使用して、リリース・テザー・ストラップにアクセスするには、ギヤ・セレクタの前にある手動パーキング解除カバーを取り外します。
3. コンソール・ベースの開口部からテザー・ストラップを持ち上げます。

4. ブレーキ・ペダルを強く踏み込んだままにします。
5. リリース・レバーが所定の垂直位置にロックされるまで、テザー・ストラップを引き上げます。こうすることで、車両は「P(パーキング)」から解除され、走行できるようになります。車がけん引車両にしっかりと接続されている場合のみ、パーキング・ブレーキを解除してください。



垂直解除位置

手動パーキング解除をリセットするには:

1. テザー・ストラップを上向きに引っ張り、「ロック」位置から解除します。
2. 手動パーキング解除レバーを下向き左方向に下げ、元の位置に入れます。
3. テザー・ストラップをコンソールの台座に押し込み、カバーを取り付けます。

メモ:

レバーがリリース位置にロックされると、アクセス・カバーを再度取り付けることはできません。

緊急用けん引フック - タイプ別装備

車両にけん引フックが装備されている場合は、フロントおよびリヤ・フェイスア／バンパに取り付けられています。

メモ:

オフ・ロードから脱出する場合、車両の損傷の可能性を最小限に抑えるために、前部のけん引フックを両方とも使用することをお勧めします。必ず適切な等級のけん引ストラップを使用してください。



フロントけん引フック



リヤけん引フック

警告!

- スタックした車両を脱出させるのにチェーンを使用しないでください。チェーンが切れて、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- けん引フックでけん引する場合は、車両から離れてください。けん引ストラップが外れて、重傷を負う恐れがあります。

注意!

- けん引フックは、車両救出などの緊急時のみに使用します。車両のけん引には、けん引ストラップの使用を推奨します。チェーンを使用すると、車両が損傷する恐れがあります。

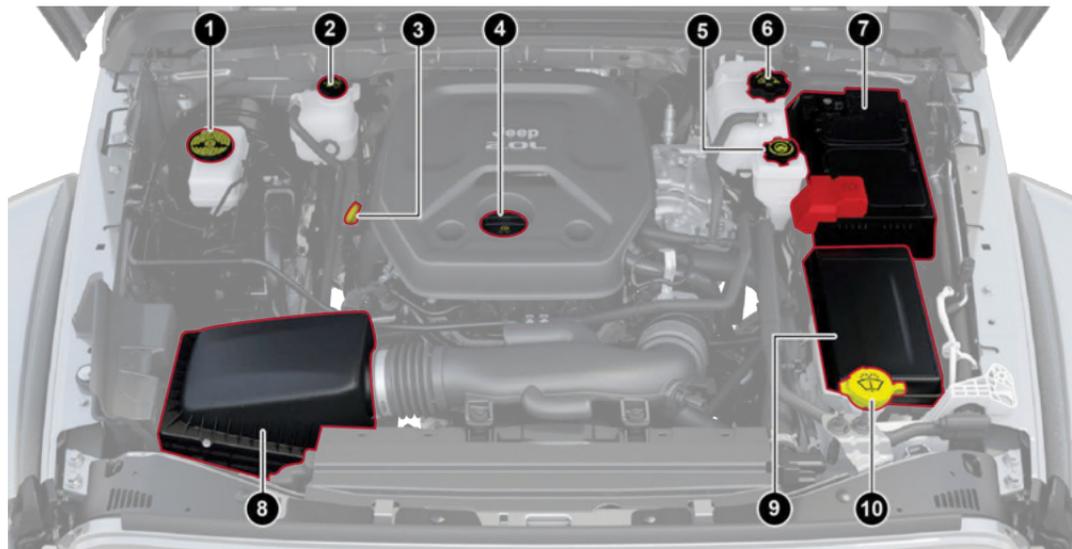
(続き)

注意!

- けん引フックは、車両を道路以外または障害物のある場所に移動するのに使用しないでください。
- けん引トラックの接続や、高速道路でのけん引には使用しないでください。
- フラット・ベッド・トラックに車両を引き上げる場合は、けん引フックを使用しないでください。
- 立ち往生した車を脱出させる場合は、けん引フックを使用しないでください。
- これらのガイドラインに従わない場合、車両を損傷する恐れがあります。

エンジン・ルームの概要

2.0L エンジン



- 1 - ブレーキ・フルード・リザーバ・キャップ
- 2 - インタークーラ・クーラント・リザーバ・キャップ
- 3 - エンジン・オイル・レベル・ゲージ
- 4 - エンジン・オイル・フィラ

- 5 - パワー・ステアリング・リザーバ・キャップ
- 6 - エンジン・クーラント・プレッシャ・キャップ
- 7 - バッテリ
- 8 - エンジン・エアクリーナ、フィルタ

- 9 - パワー・ディストリビューション・センタ(ヒューズ)
- 10 - ウォッシャ・フルード・リザーバ・キャップ

フルード容量

	US(米国)	Metric(メートル単位)
燃料(およその数値)		
2ドア・モデル	17.5 gal	66 L
4ドア・モデル	21.5 gal	81 L
エンジン・オイル(オイル・フィルタ交換時)		
2.0L エンジン	5 qt	4.73 L
冷却装置*		
2.0L エンジン	12 qt	11.4 L
2.0L エンジン・インタークーラ	3.7qt	3.5L
*クーラント・リカバリ・ボトルの最大レベルまで注入した場合		

エンジン・フルードおよび潤滑剤

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
エンジン・クーラント	メーカーの材料規格 MS.90032 の要件に適合した Mopar® 不凍液/クーラント、10 年/240,000km(150,000 マイル)フォーミュラ OAT (Organic Additive Technology) または同等品の使用をお勧めします。
エンジン・オイル - 2.0L エンジン	メーカーの材料規格 MS-13340 の要件に適合した Mopar® API SP/GF-6A 認定の SAE 5W-30 フル合成エンジン・オイルの使用をお勧めします。同等品のフル合成 5W-30 API SP エンジン・オイルも使用できますが、API Donut 商標が必要です。
	注意！ 推奨の API SP/GF-6A または同等のオイルを使用しないと、車両保証の対象とならないエンジンの損傷を招くことがあります。

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
燃料の選択 - 2.0L エンジン	無鉛レギュラーガソリン。

注意!

- 指定された OAT (Organic Additive Technology) エンジン・クーラント (不凍液) 以外のクーラント (不凍液) を混合使用すると、エンジンが損傷したり、腐食防止効果が下がる場合があります。成分が異なるため、OAT (Organic Additive Technology) エンジン・クーラントと HOAT (Hybrid Organic Additive Technology) エンジン・クーラント (不凍液) または何らかの「汎用的に互換性のある」クーラント (不凍液) を混ぜないでください。緊急時に非 OAT エンジン・クーラント (不凍液) をクーリング・システムに入れた場合、なるべく早くジープ正規ディーラーにクーリング・システムの排出、洗浄、新しい OAT クーラント (MS.90032 に準拠) の充填を依頼する必要があります。
- アルコールが主成分のエンジン・クーラント (不凍液) 製品または真水のみを使用しないでください。防錆剤は、ラジエータのエンジン・クーラント (不凍液) に合わず、ラジエータを詰まらせることがあるので添加しないでください。
- 本車両は設計上、プロピレン・グリコールを主成分とするエンジン・クーラント (不凍液) は使用できません。プロピレン・グリコールを主成分とするエンジン・クーラント (不凍液) の使用は推奨しません。

シャーシ・フルードおよび潤滑剤

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
オートマチック・トランスミッション	Mopar® ZF 8/9 速 ATF オートマチック・トランスミッション・フルードまたは同等品のみを使用してください。適切なフルードを使用しない場合、トランスミッションの機能や性能に影響を与える恐れがあります。
トランスファ・ケース	Mopar® ATF+4 オートマチック・トランスミッション・フルードの使用をお勧めします。
フロント・アクスル・ディファレンシャル	Mopar® ギヤおよびアクスル潤滑油 (SAE 75W85) (API GL-5) の使用をお勧めします。
リア・アクスル・ディファレンシャル (M200)	Mopar® ギヤおよびアクスル潤滑油 (SAE 75W140) (API GL-5) の使用をお勧めします。

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
リヤ・アクスル・ディファレンシャル (M220)	Mopar®ギヤおよびアクスル潤滑油 (SAE 75W85) (API GL-5) の使用をお勧めします。 Trac-Lok リミテッド・スリップ・ディファレンシャル装備モデルには、摩擦向上添加剤が必要です。
ブレーキ・マスタ・シリンダ	MOPAR® DOT 3 ブレーキ・フルード、SAE J1703 の使用をお勧めします。
パワー・ステアリング・リザーバ	Mopar® 電動ステアリング・ポンプ・フルードの使用をお勧めします。

整備およびお手入れ

定期整備

定期整備については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。

オイル交換のリセット

- この車には、エンジン・オイル交換の警告システムが装備されています。チャイムが1回鳴った後に、インストルメント・パネル・ディスプレイでオイル交換メッセージが5秒間表示され、次回の定期オイル交換の時期を示します。エンジン・オイル交換の警告システムは法定整備のサイクルに基づいているため、エンジン・オイルの交換時期は運転状況によって変動する場合があります。
- リセットしないかぎり、このメッセージはイグニッションを「ON/RUN」位置にするたびに表示されます。

定期メンテナンス後にオイル交換の警告をリセットするには、次の手順に従ってください。

1. ブレーキ・ペダルを踏まずに、「ENGINE START/STOP(エンジン始動/停止)」ボタンを押してイグニッションを「ON/RUN(オン/走行)」位置にします(エンジンは始動しないでください)。
2. アクセル・ペダルを10秒以内に3回、ゆっくりと強く踏み込みます。
3. イグニッションを「OFF(オフ)」位置に切り替えます。

メモ:

車両を始動させたときに警告メッセージが表示された場合は、エンジン・オイル交換の警告システムがリセットされていません。必要に応じてこの手順を繰り返してください。

エンジンの慣らし運転について

エンジンおよび駆動系(トランスミッションおよびアクスル)に対する長時間の慣らし運転は不要です。

最初の500km(300マイル)はゆっくりと走行してください。最初の100km(60マイル)を過ぎた後は、速度を80または90km/h(50mphまたは55mph)まで上げるようにしてください。

一定速度で走行しながらスロットルを瞬間的に全開にし、交通法規の範囲内で加速を行うことで、良い慣らし運転ができます。低速ギヤでスロットル全開加速を行うことは、車体に悪影響を及ぼしますので避けてください。

工場でエンジンに充填されているエンジン・オイルは、高品質、省エネ・タイプのオイルです。車を運転する時の気候条件に合わせオイル交換を行ってください。推奨される粘度および品質レベルは、➡ ページ38です。

注意!

ノンデタージェント・オイルまたはストレート・ミネラル・オイルはエンジンに絶対に使用しないでください。使用した場合、エンジンが損傷する恐れがあります。

記号

温度コントロール、自動(ATC)	13
音声認識システム(VR)	8
緊急	
SOS 緊急通話	27
緊急時	27
緊急時のケース	
ジャンプ・スタート	32
警告灯およびメッセージ	12
後方カメラ	24
自動温度コントロール(ATC)	13
車外灯	16
手動	
パーキング解除	34
新車の慣らし運転期間	41
整備アシスタンス	4
速度コントロール(クルーズ・コントロール)	17
停止/始動	6
電源コンセント	9
電動	
インバータ	10
コンセント(補助電源コンセント)	9
シート	14
燃料	
オクタン価	38
タンク容量	38
フィラ・キャップ(ガス・キャップ)	25

要件	38
不凍液(エンジン・クーラント)	38
容量、燃料	38
冷却装置	
クーラント(不凍液)の選択	38
冷却容量	38

数字

2 列目 USB	10
----------------	----

A

Android Auto	8
--------------------	---

K

Keyless Enter-N-Go™	6
---------------------------	---

L

Lights(警告灯)	
フォグ	16
ヘッドライト	16
外部	16

M

MP3 コントロール	10
------------------	----

R

Radio(ラジオ)	
設定	7

U

Uconnect	
Uconnect の設定	7
Uconnect Phone	8
Uconnect Phone と携帯電話のペアリング(リンク)	8
Uconnect システム	7
USB	10

V

Vehicle Settings(車両設定)	7
------------------------------	---

あ

アクスル・フルード	39
アクスル・ロック	20
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC) (クルーズ・コントロール)	17

い

イルミネーション・コントロール・スイッチ	16
インストルメント・パネル	11

説明	11
インバータ	
電動	10
え	
エアコン	13
エンジン	37
オイル	38
オイル・フィラ・キャップ	37
オイル、選択	38
クーラント(不凍液)	38
ジャンプ・スタート	32
慣らし運転について	41
燃料 要件	38
エンジンの概要	37
お	
オイル、エンジン	38
フィルタ	38
推奨	38
粘度	38
容量	38
オイル交換表示灯	
リセット	41
オート・ヘッドライト	16
オートマチック・トランスミッション	
フルードの種類	38

オートマチック・ハイ・ビーム	16
お手入れのスケジュール	41

か

ガス・キャップ(フューエル・フィラ・キャップ)	25
カスタマ・サポート	4
カメラ	24
カメラ、リヤ	24

き

キャップ、フィラ	
オイル(エンジン)	37
燃料	25

く

クーラント(不凍液)の選択	38
クルーズ・コントロール(スピード・コントロール)	17

け

けん引	34
走行が不可能な車両	34
けん引フック	
緊急	35

し

シート	
電動	14
ジャッキ・アップ位置	29
ジャッキの操作	30
ジャッキ作業の手順	30
ジャンプ・スタート	32

す

スウェイ・バー・ディスコネクト	
電子制御式	21
スケジュール、お手入れ	41
スタック、脱出	33
スタックからの脱出	33
ステアリング	
ホイール、音声認識	8
スペア・タイヤ	29

た

タイヤ	
スペア・タイヤ	29

て

デフロスタ、フロントガラス	13
---------------------	----

と

トランスファ・ケース フルード	39
トランスミッション フルード	38, 39

は

パッシング・エントリ	6
------------------	---

ひ

ヒータ／エアコン	12
オートマチック	13

ふ

フィルタ エンジン・オイル	38
フォグ・ライト	16
フルード、ブレーキ	38
フルード容量	38
ブレーキ・フルード	38, 39
フロントガラス・ウォッシャー	16
フロントガラス・ワイパ	16

へ

ヘッドライト スイッチ	16
----------------------	----

ほ

ボイス・コマンド	8
ボンネットを開ける	24

め

メディア・ハブ	10
---------------	----

り

リヤ ParkSense システム	19
-------------------------	----

ろ

ロード・アシスタンス	27
ロック アクスル	20

トップ、ドアの取り外し、およびフロントウィンドウを下げる際は、取扱説明書のすべての指示に従ってください。ドアを取り外し、フロントウィンドウを下げた状態で運転するのはオフ・ロード専用です。FCA US LLCでは、運転者の道路への注意がその恐れがある機器や機能を使用する場合は、十分な注意を払って扱うことを強く推奨します。

The Jeep logo is located in the bottom right corner of the page. It consists of the word "Jeep" in a bold, sans-serif font. The letters are white with a dark grey outline, giving it a three-dimensional appearance. The logo is positioned to the right of the main text block.

Jeep

